

学 校 標 準 教 育	「みずから生きる とともに生きる 日吉台の子」					
	○すすんで学習し、自らの力で課題解決しようとする子を育てます。(知)					
	○自分も友達も大切に、思いやりのある子を育てます。(徳)					
	○日々の生活を見つめ、健やかな心と体をつくろうとする子を育てます。(体)					
	○まちを大切に、まちのためにできることを実践する子を育てます。(公)					
○様々な人とのコミュニケーションを通して、社会への視野を広げようとする子を育てます。(開)						
学校概要	創立 147 周年	学校長 玉置 恭美	副校長 栗原 信一	2 学期制	一般学級：18	個別支援学級：2
児童生徒数： 516 人		主な関係校：日吉台中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> 多様な人々や社会と協働し、自己表現する力 知識や経験を活かし自ら課題解決する力 自分を律する態度と他者への思いやりの気持ち 	日吉台中学校 矢上小学校 北綱島小学校 日吉南小学校 箕輪小学校	自分の考えを持ち、対話を通して、 よりよく問題解決を図る力 ・引き続き言語活動を多く取り入れた授業展開を心掛け、年間3回の小中交流授業研 究を通して、共通テーマに即して各学校で実践している授業を見合う。・小中のつながり を意識し、各教科等の学習を充実させる。・個に応じた支援、特別支援教育を充実さ せるべく、教師側の研修を重ねる。・自己有用感を高める、「わかった」「楽しい」 と感じさせる授業の実践に取り組む。

中 期 取 組 目 標	○身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、まちと協働して子どものよさを高める学校を目指します。 ・自分も周りの人も大切にできる、思いやりのある子を育てます。 ・子どもが楽しく、自ら学ぼうとする主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを進めます。 ・家庭、地域との連携をさらに深め、地域の力を学校教育に活用すると共に、まちのためにできることを実践する子を育て ます。 ・教職員が相互に啓発・連携できる、効率的で働きやすい職場・職員組織を目指します。
----------------------------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①なかよし活動について、責任感、自己有用感を高めるのに有効である。学年相互の実態から、教職員の間で狙いを共有した上で、校内外のなかよし活動を推進していく。②令和元年度に構築した地域との関連をさらに深め、まちの一員である意識を高める。③道徳の授業を要とした道徳教育の充実を図る。
生きて働く知	①児童が主体的・対話的に取り組むことができる授業を目指し、研修をさらに継続する。②新教育課程での教科・領域横断的な学習への研修を深め、身につけた知識を活用する場面を多く持つていく。
健やかな体	①栄養教諭を中心に、食育への理解を深めると共に、給食の時間の食育指導を充実させて、健康を意識する児童を育てる。②新体力テストの結果分析を家庭に知らせることで6年間を見通して、必要な筋力、体力を高める指導を進める。③一校一実践の取組実現に向け、学年間で計画を共有する。
児童指導	①異動の多い中、「日吉台スタンダード」の共通理解を深める情報共有を繰り返して行く。②担任は、相談を密に行い、指導事項の早期発見、解決に努めると共に、チームとして児童指導に当たる。③弱い立場、支援の必要な児童に寄り添い、ニーズを確認しつつ支援する。④SC,SSWと連携する。
地域連携	①学校・地域コーディネータの活動をより充実させ、地域の力、保護者の力をより一層学校教育に活かす。②学校だよりや、ホームページをさらに身近なものとし、学校の教育活動について発信する。③学校づくり懇話会の構成を変え、次年度の学校運営協議会の在り方を中学校ブロックで確立する。
特別支援教育	①早期に担任中心に児童の実態を把握し、全職員の理解の元、最適な支援ができるよう、チームで取り組む。②合理的配慮、ユニバーサルデザインの授業について研修を深め、日々の授業に活かす。③個別支援学級と一般級の連携を密にし、個々の児童に最適な支援を行えるようにする。
未来を開く志	①生活科・総合的な学習の時間で、「まち」を身近に感じさせ、さらに「まち」のために考え、行動できるようにする。②「まち」を通して人の生き方や職業に触れ、その人たちのまちづくりの思いを共有させる。③YICAの授業を通して、グローバルな視野で多様な文化を理解する児童を育てる。
いじめへの対応	①児童に寄り添い、小さな変化を見逃さない学校づくりをする。②誰もが安心して、生活できる学校を目指し、児童が主体的に行動できる環境を整え、自浄作用を高める。③いじめを絶対許さないという土壌を築き、児童や保護者がいつでも相談しやすい学級経営を目指す。
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①経験者と未経験者を公務分掌の中で適宜配置し、協働して各自の負担を軽減しつつ学校運営できる組織を目指す。②スキル研を中心に、主に経験の浅い教員の授業力、対応力を高める。③新教育課程や新たな評価基準についての情報を共有すべく、管理職が先頭となって情報を伝える。④身につけさせたい資質能力を共有し効果的な指導法を研修する。